

Y07b 一般教養科目としての天文学の授業方法

今田 明 (同志社女子大学)

講演者は2020年度から同志社女子大学で共通学芸科目「宇宙の科学」を担当している。開講当初60名程度の履修生であった授業は2025年度には400名を超え、当学屈指の人気授業となっている。本授業は出席4割、レポート6割で成績評価を行っている。出席点は授業ごとに200字程度の質問と感想を提出することで評価しているが、これら内容の一部を次回授業の冒頭で紹介することでフィードバックを行う。これらの中には、難解な質問や心温まる感想、授業に関連した映画やアニメなどにおける描写など、内容は多岐にわたり、履修生の感性にできるだけ寄り添うよう心掛けている。一方、レポート課題は各回ごとに合計14回出題しているが、宇宙への理解を深めつつ、学生の自主的な学習を促す内容のレポートを用意している。例えば太陽や惑星に関する子供向けのプレゼン作成や、惑星状星雲や超新星残骸などの描写(お絵描き)、宇宙に関するコンテンツの報告、創作など、独創的な内容のレポート課題も多い。また、レポート課題は学生どうして議論しながら作成できるよう、複数名で取り組むことを許可しており、このことも本授業の特徴の一つである。本講演ではこれまでにやってきた授業内容やレポート課題、学生の質問感想を紹介しつつ、一般教養科目としての天文学の教育方法について議論する。